

平成 26 年度コッタロ地域事業計画（案）

平成 25 年度事業で「捕獲適地及び捕獲手法の検討調査」を行ったコッタロ地域について、さらなる捕獲手法検討等を実施したい。



コッタロ地域におけるエゾシカの生息場所及び個体数 (2014/3/12 15:00)

●H25 事業 捕獲手法検討結果

項目	内容及び視点	検討結果
ア. 植生の状況	<ul style="list-style-type: none"> どのような植物を採食しているか。 囲いワナやくくりワナなどが設置できる環境か。 	<ul style="list-style-type: none"> ヨシ類、スゲ類、ミズゴケ類の下層植生及びヤナギ類、ハンノキ等の木本類。 地面は水分が多く、大型囲いワナの設置は困難。
イ. 立木の状況	<ul style="list-style-type: none"> 定点観測で観察されたシカが休息していた林分の状況。 樹高、胸高直径、その他林況など。 囲いワナ、くくりワナ等の設置の可能性。 銃捕獲時のツリースタンド等の利用可能性。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹高 7~10m 程度のハンノキ疎林。胸高直径 (DBH) 7 cm 程度。 大規模囲いワナの支柱としては、「A」のハンノキ林は脆弱。「B」は可能性あり。 くくりワナのアンカーとしては「A」「B」ともに立木も利用できるが、「A」はコッタロ展望台から見えるため観光客への配慮が必要。 立木に座席をセットするタイプのツリースタンドには両地域とも不向き。

項目	内容及び視点	検討結果
ウ. 周辺地形	<ul style="list-style-type: none"> ・銃捕獲におけるバックストップの確保。 ・銃捕獲の場合の安全性。 ・捕獲したシカの搬出。 ・ワナや、補殺をしている状況が他から見えるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ平坦でバックストップは確保できないが、ハイシートや道道上のピックアップの荷台など高い場所の射撃ならば、「B」は可能性あり。「A」は困難。 ・「A」は川の対岸であれば捕獲個体の回収が困難。スノーモビルは湿原植生を痛める懸念。「B」は道道からウインチで引っ張ることが可能。 ・「A」は道道からほとんど見えないが、コッタロ展望台から見えるので、大規模囲いわな等は好ましくない。 ・「B」は展望台からは見えにくいですが、道道からは見えやすい。
エ. 痕跡の濃淡	<ul style="list-style-type: none"> ・どれほどのシカが利用しているか。 ・休息場所として利用しているか。あるいは通過地点や、採餌場所のみとしての利用か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「A」地域は数十頭単位で常時利用。夕方には200頭くらいが観察されることも。 ・「B」地域も数十頭単位で見られるが、「A」地域と往来しているものと予想。 ・「A」「B」地域とも、林内を休息の場として利用しているものと思われる。
オ. アクセス性	<ul style="list-style-type: none"> ・ワナの設置、捕獲したシカの搬送に係るアクセス性はどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「A」地域は小河川を越える必要があり、林内までも距離が遠い。 ・「B」地域はアクセス性が良いが、通行者から見えやすい。
キ. 利用可能な捕獲手法	<ul style="list-style-type: none"> ・上記の状況をふまえて、どのような捕獲手法が考えられるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「A」地域では、箱ワナ等小規模設備による捕獲は可能。渡河のために臨時や橋かボートを準備。 ・「B」地域では、小規模な囲いわなを林内に設置。「A」地域からも誘引を試みる。捕獲個体は止め刺し後ソリに載せ、車両のウインチ等で回収。銃器を用いる場合は、道道1060号線を通行止めにし、車両から狙撃する「流し猟式SS」が適している。

●H26 事業実施内容の検討

○テレメトリー調査

- ・コッタロ地域で捕獲したエゾシカ♀成獣にGPS首輪を装着し、行動追跡を行う。
- ・麻酔銃による捕獲を想定。
- ・捕獲場所の選定、頭数をどうするか？

○試験捕獲

- ・湿原植生に影響を与えない捕獲手法の選定
- ・理想は湿原外で捕獲することだが。